運行時の各駅と現在

◆ 新寺井駅　(大正14 年8 月開設 駅員常駐・貨物駅併設)

大正14年8月本寺井（寺井野村）と新寺井（根上村）間が開通した際に設けられました。省線駅（現JR寺井駅）との連絡乗換駅として重要な役割を果たしました。

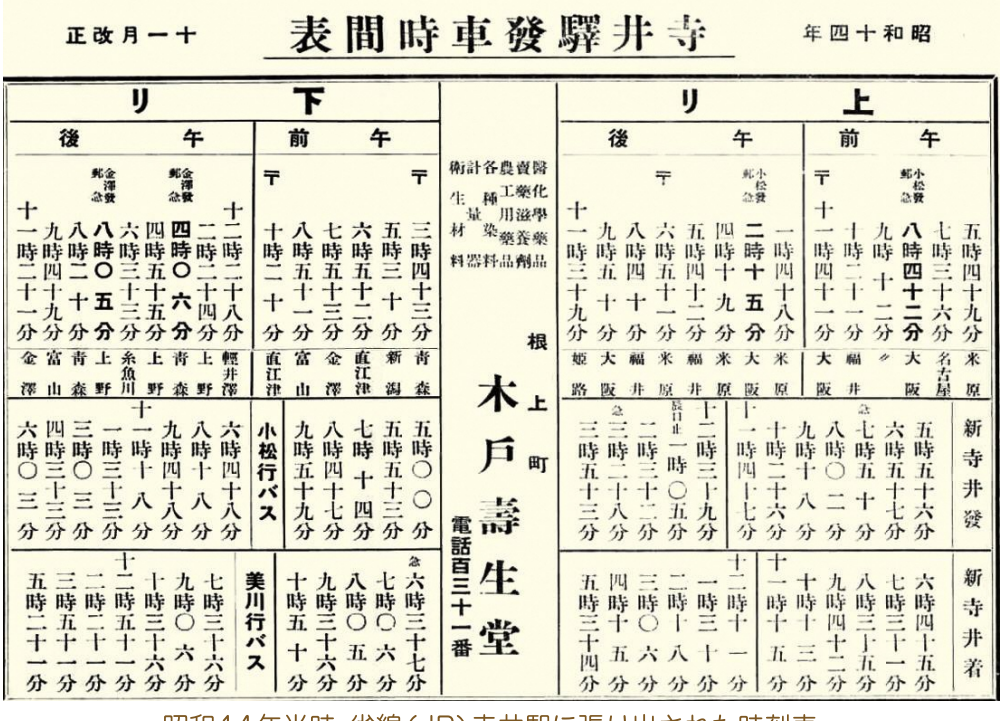
小松・金沢への通勤・通学を初めとする乗降客で賑わい、土用の丑日の前夜は加賀舞子海水浴場へ向かう人々で大変混雑しました。また、駅近くには、戦後、映画館根上劇場ができ賑わっていました。

駅には白山比咩神社、白山登山口の看板が立てられて全国からの参拝者や登山者にも多く利用されました。特に登山シーズンには、早朝に省線寺井駅に到着する夜行列車に接続して臨時電車が運行されました。

多くの市民から思い出の多い駅として寄稿されていますが、廃線後はJR寺井駅利用者の駐車場として、利用されています。

新寺井駅舎と乗客の皆さん

小公園と駐車場に整備されています。



昭和14年当時、省線（JR）寺井駅に張り出された時刻表
上段は、省線（JR）の運行時刻で、中下段右側は能美線の発車時刻と到着時刻が表示されています。

◆ 濁池駅　(大正14年8月開設 無人駅、昭和26年廃駅)

大正14年能美線創設時に開設されました。線路が大きく曲がっており、電車が通過する際には、ギシギシと車輪の音がしました。戦争中に休止となり、昭和26年に廃駅となりました。

濁池付近の踏切

踏切は撤去されています。

◆ 加賀福岡駅　(大正14年8月開設　昭和35年まで駅員常駐)

隆盛時には貨車専用ホームが南側にありました。待合室のある駅舎には駅員が出札や貨物の手配を行っていました。便所手洗もあり昭和10年頃、織物業全盛時で町内機業場に通う女工さんが多く利用、通勤通学で超満員になるので3両連結車が走っていました。

加賀福岡駅舎

市道に整備され、駅名看板が
立てられています。

◆ 中ノ庄駅　(大正14年8月開設 無人駅)

田んぼの真ん中にある停留所で小松市の高堂や荒屋の人達も利用していました。
通称「なかんしょう」で、ホームが短く2両編成車では、ホームに降りられず乗客は線路に飛び降りることもありました。

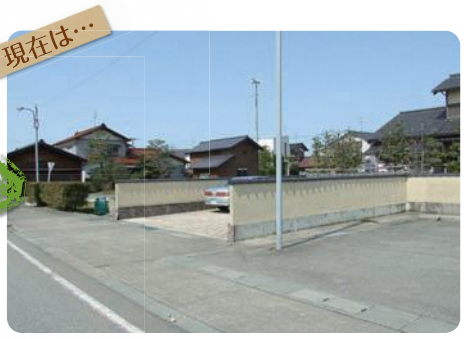
中ノ庄駅舎

市道に整備され、加賀国能美郡家の
看板が立てられています。

◆ 五間堂駅　(大正14年8月開所・無人駅)

京都織物の工場があったので、引込み線を利用して荷物の上げ下げを行っていました。一時期、駅員が配置され、住民は舞台踊りで大歓迎をしたこともありました。

五間堂駅舎



市道に整備され駅看板が
立てられています。

◆ 寺井西口駅　(大正14年8月開設 無人駅)

粟生村･吉光村･吉田村(西任田･東任田)方面の人が多く利用していました。現在の寺井中学校のグラウンド近くで本寺井駅まで遠かったので大変重宝がられた無人停車所でした。

加賀病院(現能美市立病院)への通院には便利な駅として多くの人に利用されていました。

寺井西口駅舎

線路跡は未舗装道になっています。

◆ 自動車連絡場

本寺井駅と寺井西口駅の中間地点（現寺井病院付近）にホームのみの停留所がありました。その頃、小松ー本寺井駅を運行していた通称青バスと電車の客の乗換連絡停留所として利用され連絡場と呼ばれていました。当時、源さんが、乗客のためにうどん店を経営していました。

連絡場の写真は残っていませんが、現在の寺井病院付近の大門用水上にホームの一部がかかっていました。

◆ 本寺井駅　(大正14年8月開設・昭和48年まで駅員常駐 貨物駅併設)

駅の近くの金子運送が電車を利用し貨物運搬をしていました。
駅前には商店街や映画館などがあり、旧寺井町の繁華街として人通りが多く、昭和30年頃駅前で九谷茶碗祭が開催されて多くの人で賑わっていました。昭和34年まで車庫・保線係がいて、1日乗降客が1100名、貨物運搬も2トン貨物が80個に達し、その80%が九谷陶器でした。車庫では客車の改造や修理も行っていました。

本寺井駅舎

図書館に様変わりです。

◆ 末信牛島駅　(大正14年3月開設 無人駅)

開設時は末信駅でしたが、後に末信牛島駅に改称されました。戦時中は、軍需物資として乾電池の材料をこの駅で降ろして加工工場へ運んでいました。農協倉庫の米俵を貨物車に積み込みもしていました。

末信牛島駅舎

広場に整備されイベントに
利用されています。

◆ 加賀佐野駅　(大正14年3月開設 昭和41年まで駅員常駐)

地元はもちろんですが、鍋谷、和気、八里、河田方面からの利用者も多く、最盛期には1日に700人の乗降客がありました。
陶器、木材、石材の出荷、肥料・原石の入荷も多く、産業面で大きな力となりました。駅前には中辻・石崎運送店が開業し貨物集配を営業としていました。
狭野(さの)八幡神社で茶わん祭が行われた頃には、電車は利用者で溢れていました。

加賀佐野駅舎

小公園として整備されています。

※当時、佐野駅から、新小松-遊泉寺の小松線に連絡する計画もあったようです。

◆ 湯谷石子駅　(大正14年3月開設 昭和41年まで駅員常駐)

井出製陶や湯谷、徳山、和気に点在した瓦工場の石炭、陶石、製品の入出荷のため貨物専用引込線やホーム、重油タンクがありました。また、鍋谷の奥山にあった服部鉱山は陶石輸送に利用していました。

湯谷石子駅舎

健康ロードと隣接した公園に整備されて
広く市民に利用されています。

◆ 徳久駅　(大正14年3月開設、昭和41年まで駅員常駐・貨物駅併設)

昭和30年代の全盛期には、鶴来を経て金沢方面へ通勤・通学する人、新寺井で乗り換えて小松方面へ通勤通学する人で賑わっていました。常駐の駅員と共に駅の西方面にあった北鉄徳久変電所にも職員が常駐し駅前の人達と交流が多くありました。

徳久駅舎

公園として整備され駅看板が
立てられています。

◆ 上開発駅　(大正14年3月開設 無人駅・貨物駅併設)

産業組合支部が上開発に設置され、倉庫が建てられると、肥料や米の出荷のための貨車専用の引込み線が敷かれました。辰口駅から乗り込んできた職員が引込み線のポイントを操作していました。イタズラ防止の鍵が掛けられていましたが、上開発駅は無人だったので子供達の格好の遊び場となっていました。

上開発駅舎

アスファルト整備されています。

◆ 辰口温泉駅　(大正14年3月開設　昭和31年辰口温泉に改称 駅員常駐・貨物駅併設)

旅館の仲居さん達がお客さんを新寺井駅まで迎えに行くため電車を利用していました。駅には送迎の仲居さん専用の乗車札がありました。

商店のお母さん達が商品の仕入れのために新寺井駅まで能美電を使っていましたので、お客さんは顔見知りが大変多かったようです。

能美電開通時、辰口温泉には、4軒の温泉宿があり、農閑期に能美電を利用して温泉へ泊まりに来る乗降が多くあり、この地区では中心的な駅で、構内には上下線が同時に停車できるようになっていました。辰口温泉近くに競馬場があった頃、多くのファンが当駅を利用していました。

辰口温泉駅舎（上下線交差）

辰口保育園に様変わりです。

◆ 来丸駅　(大正14年6月開設 無人駅)

昭和2年、駅近くに機業場ができ、村のお嫁さんや娘さんは織布工として多く働いていました。昭和12年に新しい機業場が開業し、上開発、辰口、倉重の人も電車で通っていました。

来丸駅舎

記念碑が立てられています。

◆ 火釜駅　(大正14年6月開設 無人駅)

第45･46代石川県知事田谷充実氏の地元。近くに八幡神社がある駅で通勤通学に利用した田んぼの真ん中の小じんまりとした駅でした。冬場、雪で電車がなかなか来ないときは乗車待ちの人で狭いホームがいっぱいになっていました。

火釜駅舎

舗装整備されています。

◆ 加賀岩内駅　(大正14年6月開設 昭和41年まで駅員常駐 貨物駅併設)

沿線の中でも大きな駅で駅員が2名常駐。貨物引き込み線があり、米麦、藁工品、肥料、織物製品などの積みおろしが行われていました。

また、「ばんばのばあちゃん」を頼って県内外から多くの人が整骨の治療に来られることで旧国鉄との連絡切符が最も多く販売された駅として注目を集めていました。加賀が付く3つ目の駅です。

加賀岩内駅舎

小公園として整備されています

◆ 三ツ口駅　(大正14年6月開設・無人駅)

田んぼの真ん中にあった小さな駅です。三ツ口駅は三口集落での時計台の役割をしており正確な時刻を知らせてくれました。それは駅近くを通過する電車のレールがきしむ音であり、電車通過で田んぼにいた人へ「ひらがり(昼休み)」、「よだがり(夕方)」の時刻を知らせてくれていました。

開業当初は、「三口駅」でしたが、戦争中に合併した浅野川線にも「三口駅」があったので「三ツ口駅」に改称されました。

三ツ口駅舎

桜健康ロードとして整備されています。

◆ 宮竹駅　(大正14年6月開設 昭和43年まで駅員常駐 貨物駅併設)

引込み線のそばに農協の倉庫があり、米や肥料、織物などが電車で運ばれていました。駅の傍には造り酒屋あり、住民から親しまれていました。秋になると何故か蛇がよく電車に轢かれていました。

駅舎の近くに保線者用の建物があり、専属の保線員が配属されていました。

宮竹駅舎

小公園として整備されています。

◆ 灯台笹駅　(大正14年6月開設・無人駅)

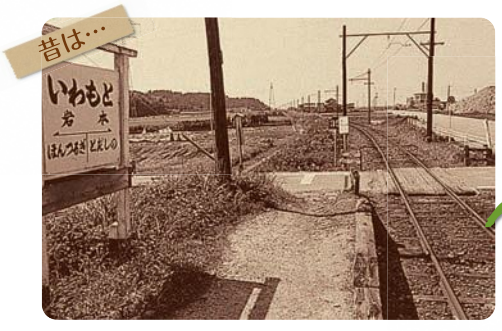
田んぼの真ん中にあり通勤・通学者の利用が多かったようです。
灯台笹出身の女性運転手が戦争中は男性に代わって活躍しました。裏山には凝灰岩の採掘場があり電車のお陰で販路が拡大できました。

灯台笹駅舎

健康ロードと一体化整備されています。

◆ 岩本駅　(大正14年6月開設 無人駅)

灯台笹・岩本の天狗壁は良質の石材を産出する石切り場があり昭和30年頃まで石が切り出されて能美電の貨車に乗せられて運搬されていました。能美電によって販路が拡大できました。



岩本駅舎

バス停車場として利用されています。

◆ 天狗山駅　(大正14年6月開設 無人駅)

手取川の南側山に面した駅で現能美市としては、最後の駅でした。
新寺井―鶴来間の開通時に開設された駅で、昭和9年の手取川大洪水で鉄橋が流された際には、新寺井―天狗山間での折り返し運転となっていました。

舗装整備されています。